

長子保護者 様

唐津市立佐志小学校
校長 原口 毅

平成30年度 第1回学校評価アンケート結果と考察

6月に第1回学校評価アンケートのお願いをしましたところ、約90%の保護者の方にご回答いただきました。ご協力いただきありがとうございました。昨年度から評価内容の見直しを行い、保護者アンケートの対象も「佐志小の子ども」から「わが子」に変えましたので、ご家庭での教育やしつけの振り返りの機会としていただいたのではないのでしょうか。

以下、保護者と児童の意識の差を中心とした集計の結果とそれに対する考察をまとめていますので、ぜひ、ご家庭での教育、しつけの改善に生かしていただきたいと思います。学校でも、このアンケート結果及び、いただいたご意見をこれからの学校教育活動の改善に生かしていき、2月上旬に予定している第2回学校評価アンケートでは、今回よりもいい結果になるよう努力したいと思います。

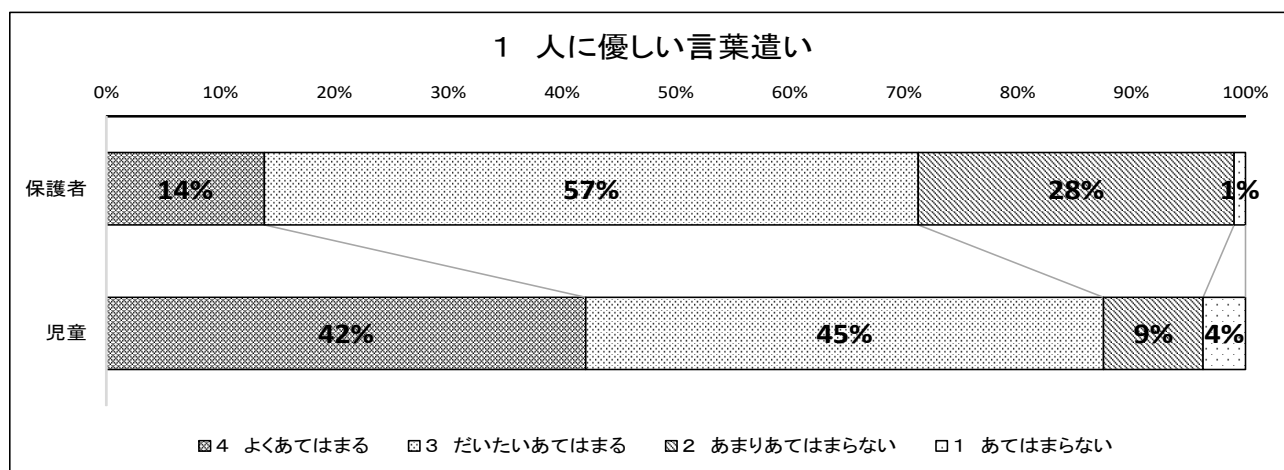
※達成率(%)は、「よくできている」「まあまあできている」の割合です。

1 自分を見つめ他者を理解し、人や社会とつながろうとする子どもを育てます。

① 人権感覚と実践力の向上

達成率

保護者	お子さんは、学校の合言葉「さし人」にある「人に優しい言葉づかい」ができていますか。	71%
児童	あなたは、人に優しい言葉づかいができていますか。	87%

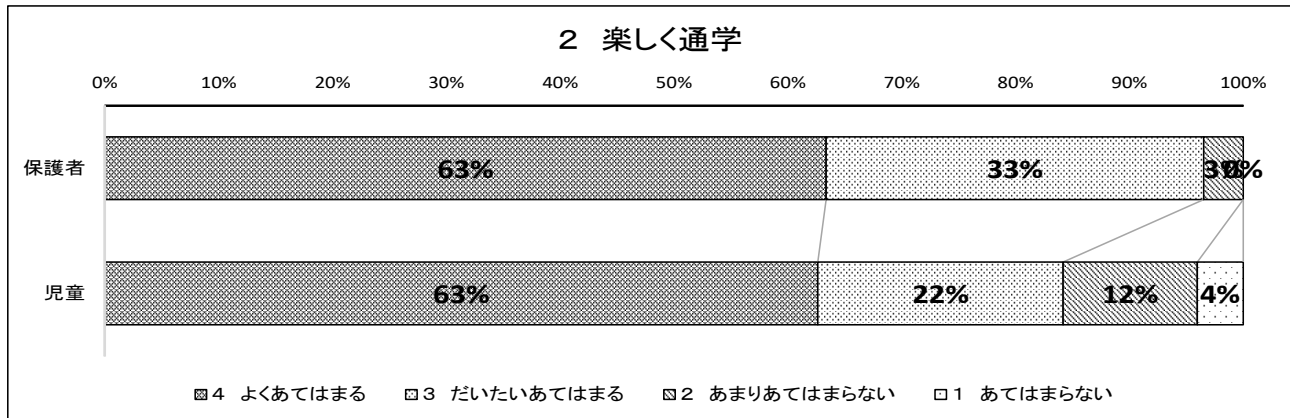


言葉遣いについては、この学校評価アンケートやいじめアンケートで「(あまり)よくない」というご意見をいただきます。学校の重要課題として、ことあるごとに問題として取り上げ、全校的な取組を行ったり、個別の指導をしています。そのため、昨年度1月の児童の達成率は79%でしたが、今回は87%ですので、数値的には改善が見られます。学校での指導の成果が家庭生活の中でも現れるよう、引き続き学校でも家庭でも根気強く指導をしていきましょう。

② 不登校傾向にある児童に対する細やかな支援

達成率

保護者	お子さんは、楽しく学校に通えていますか。	96%
児童	あなたは、学校に行くことが楽しいですか。	85%



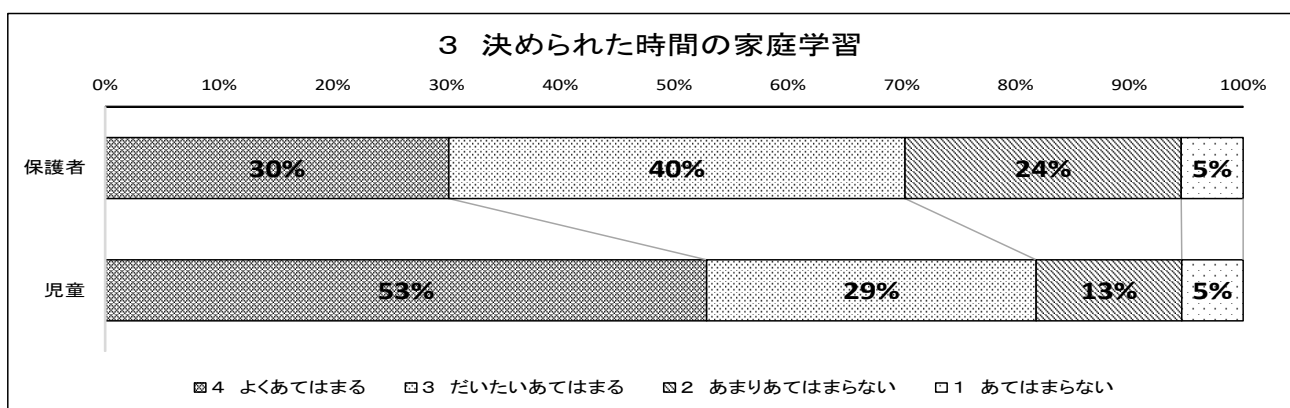
保護者のほとんどが「子どもは楽しく学校に通えている」と感じています。学校としてはたいへん嬉しい結果です。また、85%の児童も「学校が楽しい。」と感じている結果が出ていることは、学習や友だち関係が良好であることを示しています。しかし、全体の15%の児童が「楽しくない」と感じているところは今度の課題だと考えます。学校では、子どもが「苦手だ」と感じる活動もありますし、集団生活の中でストレスを感じることもあるでしょうが、それでもトータルしたら「楽しい」と感じられるように、ほめたり認めたり、あるいは達成感や満足感を感じられるようにしていきたいと考えています。

2 家庭学習の習慣がきちんと身につく、自分の考えをきちんと言える子どもを育てます。

③ 学習習慣と学習意欲の向上

達成率

保護者	お子さんは、ご家庭で、決められた時間学習できていますか。	70%
児童	あなたは、お家で、決められた時間学習できていますか。	82%

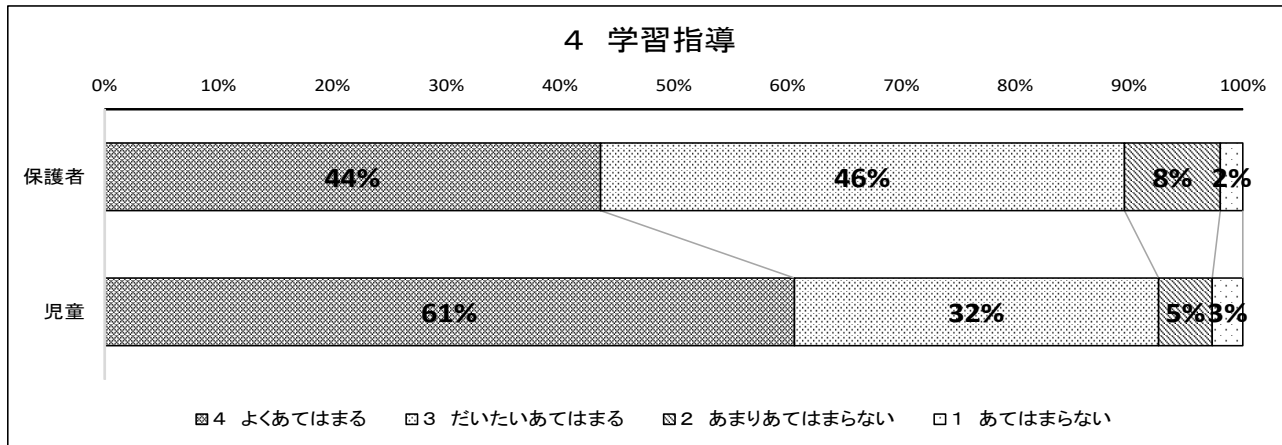


低学年20分、中学年40分、高学年60分という時間を最低の時間としていますが、それがしっかりできている児童が80%にとどまっていることが伺えます。「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と答えた2割の児童が、1日にどれくらいの時間を家庭学習に使っているかが心配されます。学年や個人差はあるかともいますが、日常生活の中に「この時間は勉強の時間」と位置づけ、テレビやゲームのない環境で宿題や読書に取り組むことが上学年・中学校に進むにつれてたいへん重要になってきます。ぜひ、ご家庭で話題にし、今より少し長い時間の目標をたてて取り組んでいただけたらと思います。

④ 指導方法の改善

※保護者の質問内容と児童の質問内容が異なっていますが、学習への関わりという点で一つにまとめています。 達成率

保護者	お子さんの音読を聞いたり、宿題をみたりしていますか。	90%
児童	あなたは、グループやクラスで話し合う学習で考えを言ったり、聞いたりしていますか。	93%

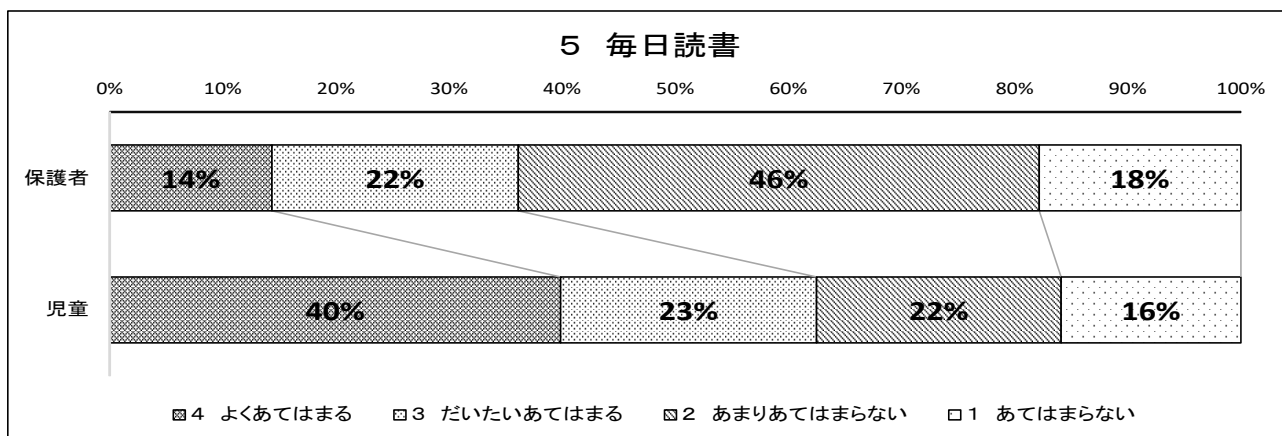


多くの保護者の方が子どもたちの宿題を見たり、音読を聞いたりしていることを嬉しく思います。低学年はもちろん、高学年でもチェックをしてあげてください。保護者が「取り組み方」のチェックを、教師が「正誤のチェックとできていないところの指導」というように役割分担しながら、取り組んでいくと効果が高まると思います。児童に質問した「話し合う学習」は、佐志小の授業改善で取り組んでいることです。子どもたちが、自分の考えをもち、児童相互の話し合いや教師の支援で考えを深めたり広げたりする授業(アクティブラーニング、コミュニケーション重視の授業)を目指していきます。

⑤ 読書活動の充実

達成率

保護者	お子さんは、家庭でほぼ毎日読書をしていますか。	36%
児童	あなたは、学校や家でほぼ毎日、本を読んでいますか。	63%



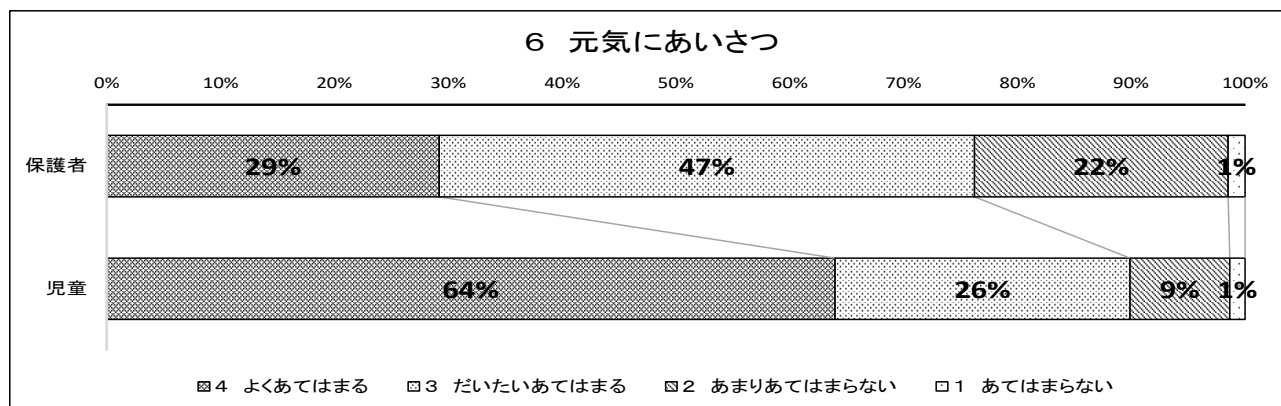
「毎日」さらに「学習マンガなどは除く」ということで、かなりハードルが高かったようです。保護者の達成率は全ての項目の中で際立って低いものになっています。それに比べて児童の達成率が高いのは、学校での読書も含めていることが原因だと思います。つまり、家庭で読書をしていない児童が非常に多いということが伺えます。また、個人差が大きいことも伺えます。学習時間を決め、宿題が終わった後の「5分間」程度でもかまいません。「本に親しみ・読書をする」といった習慣づけが少しでもできるようになればいいですね。

3 明るく安全に学校生活を送り、節度ある行動ができる子どもを育てます。

⑥ あいさつの習慣化

達成率

保護者	お子さんは、自分から進んで、元気にあいさつをしていますか。	76%
児童	あなたは、自分から進んで、元気にあいさつをしていますか。	90%

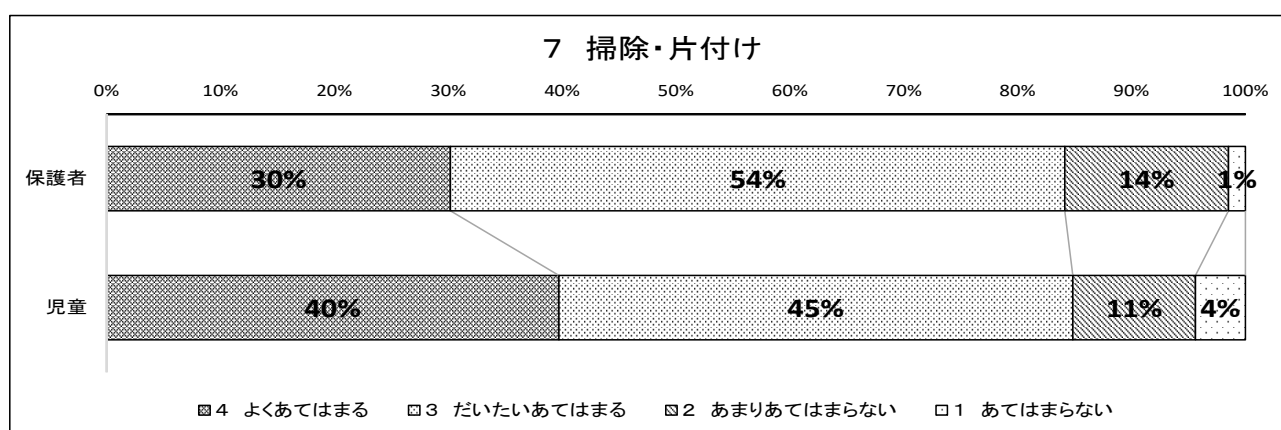


昨年度1月の保護者結果(74%)と比較すると、ほとんど変化がありません。しかし児童結果については83%からアップしています。「よくできている」と思っている保護者と児童の意識の差が大きいようです。保護者が家庭や地域での様子を基準としているのに対し、児童は学校での登校時のあいさつを基準にしていることがこの差につながっていると推測されます。地域の方からは「元気な声で立ち止まってあいさつをする児童が増えている」という声も聞かれます。校内では元気にあいさつをしている子どもたちです。「学校の中だけ」ではなく、家庭や地域でも進んであいさつができる児童像を目指したいところです。大人が率先してあいさつをすることも大切です。

⑦ 掃除の習慣化

達成率

保護者	お子さんが、家庭で掃除や片付けをするようにしつけていますか。	84%
児童	あなたは、おしゃべりをせずに時間いっぱいしっかりとそうじをしていますか。	85%



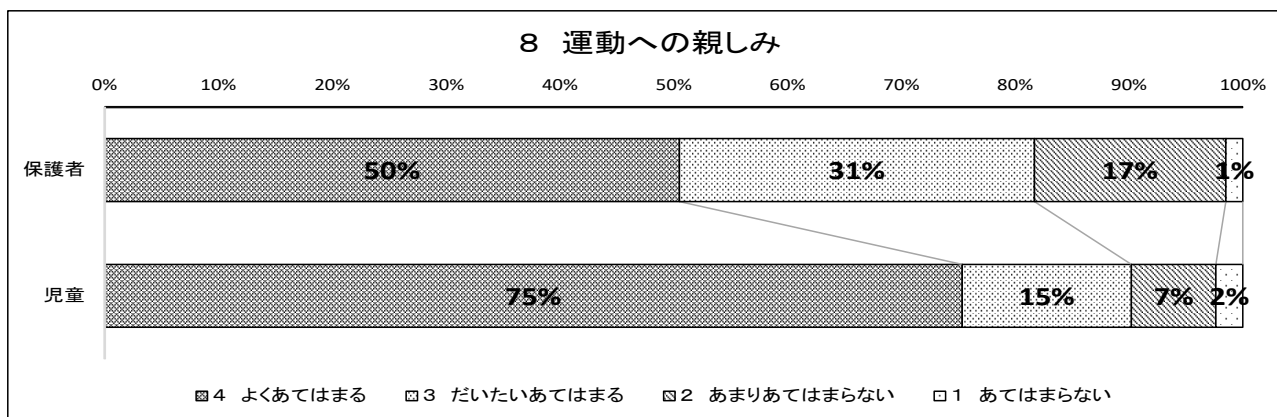
家庭の片付け、学校での掃除という違いはありますが、どちらも85%の達成率となっています。学校では担任だけでなく、全職員が清掃指導をしています。掃除の時間に静かな音楽を流し、時間いっぱいしゃべらずに掃除をするように指導しています。また、「縦割り班掃除」を設定し、上級生が下級生に掃除のお手本を見せる(指導する)活動を取り入れています。これを継続、徹底し、掃除の時間には、自分の受け持った場所を黙々と掃除をする学校を目指していきたいと思っております。ご家庭でも、家族の一員として整理整頓や後片付けのできるお子さんを目指してみてください。

4 共に関わり合う良さを感じながら、進んで運動に取り組む子どもを育てます。

⑧ 運動習慣の改善や定着化

達成率

保護者	お子さんは、外で体を動かすなど、よく運動をしていますか。	81%
児童	あなたは、友だちといっしょに外で遊んだり運動したりできていますか。	90%

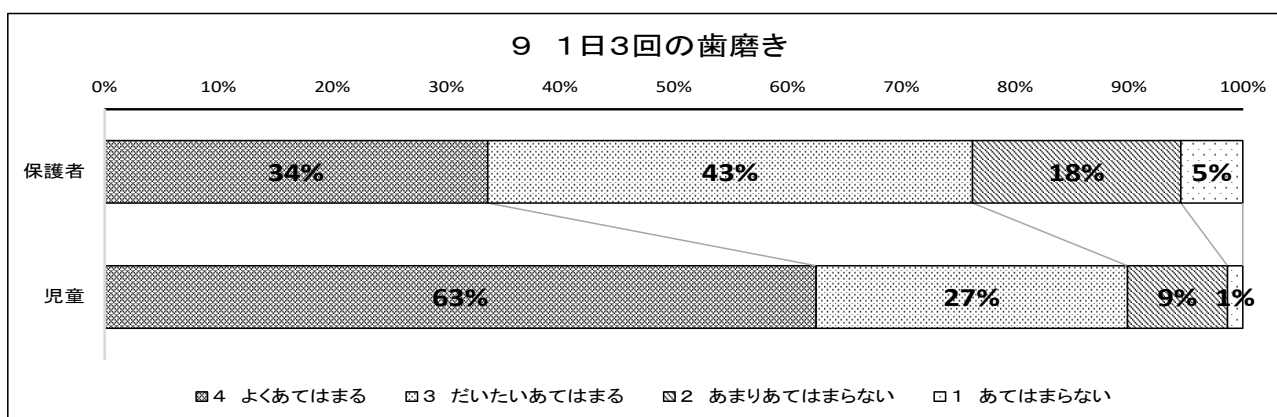


佐志小の児童は、朝、中休み、昼休みと外でよく遊ぶ児童が多くいます。また、体育の授業はもちろんですが、校外のスポーツイベントに積極的に参加する児童も多く見られています。それを裏付けるように、この質問項目の結果も高いものとなっています。全体的に体を動かすことが好きな児童が多いのですが、約10%、10人に一人の割合の児童は体を動かすことが嫌い(苦手)な傾向にあります。休みの日もあまり外に出たがらず、「室内ゲームの方が楽しい」と言っているのだとしたら「要注意」だと受け止める必要があると思います。

⑨ 望ましい生活習慣の形成

達成率

保護者	お子さんは、1日3回以上歯磨きをする習慣が身についていますか。	77%
児童	あなたは、歯磨きを少なくとも3分程度、1日3回以上していますか。	90%



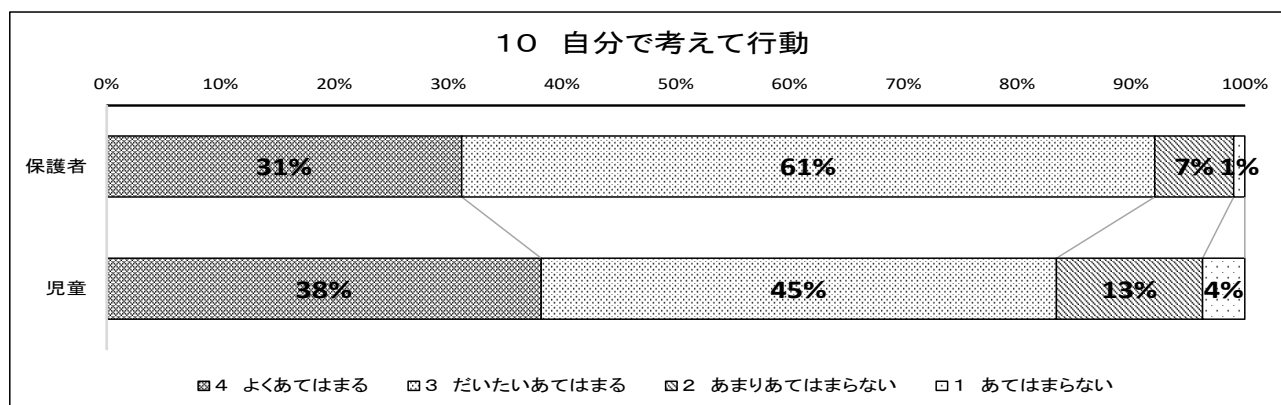
佐志小の児童は虫歯の保有率が残念ながら高いです。また、年々処置率は上がっているものの、未処置率も高いです。日頃からできる虫歯予防の方法が歯磨きですが、上のグラフを見ると決して良好とは言えません。1日3回というところがポイントとなりますが、学校では「給食後」に取り組んでいますから、家庭では朝と食後または寝る前に歯を磨けば3回をクリアすることになります。それができていないということは朝や夜の歯磨きをしていないということになり、これは問題だと思います。まず、朝夕の歯磨きを必ずさせましょう。歯は生涯の健康につながる大切なものです。虫歯のある子はひどくならないうちに歯医者での治療をお願いします。

5 集団の一員としてよりよい学校にしようと、課題に気づき、解決の方策を考え、実行する子どもを育てます。

⑩ 気づき、考え、行動する学級集団の形成

達成率

保護者	お子さんに、自分で考えて行動するようにつけていますか。	92%
児童	あなたは、学校生活をよりよくするためにどうすればいいか考えて行動できていますか。	83%



「気づき、考え、実行する子ども」という本校の目指す児童像に関わる質問項目です。昨年度1月の保護者結果(90%)や児童結果(77%)と比較して、おおむね良好だと思います。「自立して社会の一員として豊かな生き方をする」ことが教育の目的ですが、その達成のためには、これまでの質問項目である「学ぶ意欲」や「基本的な生活習慣」が根元があり、さらに状況に応じてよりよく行動するための思考力や判断力が求められます。「いいことか悪いことか」「どうすればいいのか」といったことを、常に自分で考え、よりよい判断をし、進んで行動できる児童を育てたいと思っています。また、授業や学校行事等においても、児童に「役割」と「責任」を持たせ、自分の意思やアイデアで主体的に活動するための手立てを今後も数多く持たせていきたいと考えています。